



「子曰、徳不レ孤必有レ隣」

(論語)



「子曰く、徳は孤ならず、必ず隣あり」～徳ある行為を続けていたら、それは必ず人を引きつけ、応援をしてくれる人が現れる～という意味です。今は、コロナ禍で生きづらいことも多いかもしれませんが、いつも、周りの人を思いやり、正しい行為を続けましょう。あなたのことを理解し、応援してくれる仲間が増えてきます。

SNSから子どもを守る

ある新聞に、「新型コロナウイルスによる長期休校の影響で、ネットやゲーム依存のリスクが深刻化しています・・・」という記事が出ていました。コロナ禍で、家庭にいる時間が増えたせいで、ネットやゲームをする時間が多くなり、学校が始まってもその生活からなかなか抜けきれない子どもが増えているのでしょうか。

皆さんの子どもさんはいかがですか？「うちの子は、大丈夫です」か、「ちょっと気になる」「大いに気になる」か、どれでしょうか？子どもとネットとの関わりに対して、気になっている家庭は多いのではないのでしょうか。

ネットやゲーム依存は、スマホやパソコン自体に問題があるのではなく、子どもをとりまく、親子関係や友人関係の中にあるのではないのでしょうか。家庭に不満があったり、また、学校ではいじめられていたり、勉強がわからなかったり等・・・。家庭や学校の生活に満足していないからなのだと考えられます。子どもにとってゲームやSNSをすること以上に楽しいことが家庭や学校の中になくということも原因の一つでしょう。

どのようにしたら、この問題が解消されるのか、考えてみましょう。

家庭では、子どもと話し合い、子どもの言い分や悩みを聞いてやりましょう。家の中では、一緒に料理をしたり、植物を育てたり、また、外に出て、釣りやドライブ、キャッチボール、サッカーボール蹴り等をしてみてはどうでしょうか。これらは、会話のきっかけづくりになりますし、絆づくりの大切な時間になります。このことにより、ネットやゲームから子どもの気持ちが離れていくことが期待されます。

次に、ネットやゲーム依存を解消するために、パソコンやスマホの利用についてのルール作りをしてみませんか。それは、親が押しつけたルールではなく、子どもが納得した上でのルールです。そのようなものであれば、子どもも守ろうとするのではないのでしょうか。

ルールの例として、

- 1 一日に1時間以上は利用しない。
- 2 夜、10時以降は親に預ける。
- 3 学校には持って行かない。
- 4 守れなかった場合は、親に預け、1週間使用しない。

等です。

そして、このようにして作ったルールについては、子どもから、友達にも伝え、理解を得るようにすることが大切です。友達がメールを送ったことに対して、返信ができないことを理解してもらわなければならないからです。

新内閣では、デジタル庁が開設されました。これからは、生活の中でパソコンやスマホを上手に活用する能力が求められます。取り上げるのではなく、生活をより豊かにするためのアイテムとして活用できる人間に育てることが大切なのではないのでしょうか。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)